



海外特殊情報 第二十三號

昭。一七・八・二五(六)
情報局第一部第二課

◎今に驚異的戦果を挙げたるソロモン

ソロモン作戦反響

UPP 眞珠灣十七日發 ソロモン群島方面に於ける戦局は海空戦を展開中であり、その間陸路確保のため海軍部隊が盛に交戦してゐることだけ分は明かである。聯合軍は上陸した海兵隊が陣地を構築せるソロモン群島に補給品並に材料を輸送する必要に逼られてゐる一方では日本軍が援軍を南方に送らんと懸命に努力してゐる(一?)

依然當局では沈黙を續けてゐるが、後日その詳細が發表せられた時は新しい米軍部隊が眞に日本軍を驚愕せしめた米海軍の重要會戦が明かにされることと思はれる。ソロモン方面において彼我共に相當の損害を蒙つたことは事實のやうである。珊瑚海及びミッドウェイの海戦等では勝利は比較的急速且つ整然と收められたのであるが今回の場合は當分の間斷續的に海戦が續けられるであらう。一方日本の公式スポークスマンはソロモン群島に上陸した海兵隊は米海軍のスポークスマン及び米ラジオ放送局が役に立て得るやうな若干の資料を提供せんとしたものに過ぎない。と主張してゐるが日本側は米海軍が極端に沈黙を守つてゐるの

で何らかの情報を引出さうとして又もや笑止の宣傳を行つてゐるのだ。

◎モスクワ會談瑞西紙反響

△チユーリツヒ十八日發同盟
モスクワ三國會談に就て當地のノイニ、チユーリツヒ、ツアイツグ紙は次の如き論評を行つてゐる

ソ聯が英米との軍事的、政治的協力を歐洲にのみ極限したことはチャーチル訪ソの成果としての英ソ共同コミュニケのことで特に注目される。ソ聯は英米と歐洲で共同する中で極東問題に就ては嚴重なる態度を採らなかつたことに満足してゐる。このソ聯の選方は決して利己的ではない。何故ならソ聯が大東亞戦争に捲き込まれれば、その結果太平洋、印度に於ける日本の英米に對する壓迫を除外するにしてもソ聯の歐洲戦線がすぐさま全面的に崩壊してしまふ。結局ドイツの本土又は地中海攻撃を可能ならしめるからである。

△チユーリツヒ十八日發同盟

ラッスリス紙ロンドン特派員の報道によればロンドンの一部ではモスクワ會談の結果スターリン首相は英米の第二戰線展開が更に遅延するのを承認したが、それはソ聯が戦局轉換

を一九三九年まで待機するのに陸軍同意したものだとみてゐる。しかし之は事實に基いて確認された情報ではなく。かかる臆説を中心にして諸説紛々としてゐるが、その内に第二戰線問題に關する聯合國側の苦境が指摘されてゐる。即ち、現在直ちに對獨第二戰線を展開するのは將來之を行ふよりもドイツを憐すであらうが、充分な準備に缺けて居り、又時期を待てば成功の機會は多くともドイツがそれまでに東部戦線で強固な戰略據點を確保すれば、ドイツを憐すことが出来なくなるのである。聯合國側の深刻なるジレンマが露呈されてゐるのであるが、ロンドンでは若し聯合國が後者を採るとすればソ聯がまだ數ヶ月は軍事的にも經濟的にも堪へ得ると彼等が信じた場合であらうと見られてゐる。此の意味で軍事情報のウエーサーが將軍、經濟専門家のハーマン大使がモスクワ會談に出席したことは特に注目されてゐる。

◎日本の對ソ要求交渉説英例執拗

ロイターとロンドン十八日發
當地反ソ消息筋より得た情報によれば駐ソ佐藤大使はソ聯當局に對し左の如き斷乎たる要求を提出したといはれる